

基本構想(3)

4 第5次総合計画におけるまちづくりの基本方向等

三田市の特性や三田市を取り巻く状況などを踏まえて、次のとおりまちづくりの基本目標を確認するとともに、私たちが目指すまちのイメージを掲げます。

(1)まちづくりの基本目標

＜第2回審議会で審議しました＞

(2)めざすまちのイメージ

＜パブリックコメントの実施にあわせて、めざすまちのイメージコピーを市民投票により選定します＞

(3)土地利用

ア 現状

大都市近郊にありながら、豊かな自然環境と快適な都市空間をあわせもつ三田市は、先人から引き継がれてきた三田の財産である、緑豊かな里山風景と美しい農村集落が共生している「さとエリア」と、商業、業務などの都市機能が集積する既成市街地や、ニュータウンとして発展してきた計画的市街地などを有する「まちエリア」の2地域から構成されています。

JRや神戸電鉄などの公共交通により、大阪市や神戸市など阪神間の大都市と連絡しているとともに、中国自動車道、近畿自動車道敦賀線、六甲北有料道路などにより、近畿圏内をはじめ、中国方面や北陸方面などとも結ばれ、広域交通ネットワークの要衝となっており、鉄道駅を拠点としたまちづくりが進められてきました。

【さとエリア】

- ・ 豊かな自然環境が保全されており、里山と農村集落が共生する土地利用がされています。
- ・ 里山や河川等により良好な景観形成と、生物多様性が維持されるとともに、森林の水源涵養や農地の保水による防災機能が、安全・安心な都市を形成する上で重要な役割を担っています。
- ・ 農村集落では、地域の魅力である豊かな自然や伝統文化、農作物などを活かしたコミュニティ活動が行われるとともに、農地などにおける生産活動が、市民へ新鮮な農畜産物や食料を供給しています。
- ・ 高齢化の進行や若者の転出などの人口減少が進むことによる、地域活力や生活環境の低下を抑制するため、市街化調整区域における開発許可制度の弾力的運用を進めています。

【まちエリア】

- ・ 近世の城下町や門前町から、高次都市機能の集積や誘導により発展した既成市街地、閑静でゆとりある計画的市街地であるニュータウン、産業集積の拠点となる工場適地などによる、

さまざまな土地利用がなされています。

- ・ 三田駅前では都市空間を有効的、合理的に活用するため市街地再開発事業による都市機能と居住機能の整備が進められており、新三田駅周辺では土地区画整理事業による宅地の利用増進、都市基盤が整備されたことで、生活の拠点となる駅周辺において新たな人口流入が今後見込まれます。
- ・ ニュータウンでは、都市機能や居住機能が計画的に配置されており、社会経済情勢や土地利用ニーズ等に対応した都市機能などを適切に誘導、配置することで、快適な住環境が持続的に維持されています。
- ・ テクノパーク等の工場適地では、企業誘致を促進する立地環境を整えることで、多様な企業の進出により、活力あふれる産業集積地として発展してきました。

イ 土地利用の目標

土地利用の目標は、これまでのまちづくりで培ってきた成果と、本市の魅力である「ひと」「まち」「さと」を活かした、人口減少にも負けないまちづくりを進めるため、次のとおり定めます。

- ① 豊かな里山とひと・まちとの共生がなされること
- ② 市域全体が、活力にあふれ、安らぎを享受できること
- ③ これらを次世代に引き継いでいくこと

ウ 土地利用の方針

土地利用の目標を踏まえて、次のとおり市内全域の基本方針と、「さとエリア」・「まちエリア」の地域特性に応じたエリア別の土地利用の方針を定めます。

(基本方針)

- ・ 人と自然が共生できる土地利用を進めます。
- ・ 各地域における地理的、自然的特性及び文化的資源を最大限に活用した地域活力の再生と持続的発展に資する土地利用を進めます。

(エリア別の方針)

さとエリア	<ul style="list-style-type: none">・ 地域活力やコミュニティ、生活環境の維持、向上を図るため、更なる開発許可制度などの弾力的運用の取り組みを進めます。・ すべての市民が心豊かで安心して暮らすために共有する貴重な財産として、水源涵養や生物多様性の保全、災害の防止、風致の維持に必要な里山と自然を保全します。・ 農業振興を図るため、農業生産の基盤となる一団の優良農地等を適切に保全します。・ 農林業や観光など地域資源を活用した経済基盤の強化及び持続可能で活力ある農村環境の整備を図ります。
-------	--

まちエリア	<ul style="list-style-type: none"> 現在のコンパクトな市街地形態を維持しつつ、鉄道駅などアクセスしやすい地域を都市核と位置づけ、都市機能の立地誘導を進めます。 	
	中心都市核	三田駅周辺
	都市核	フラワータウン駅周辺、ウッディタウン中央駅及び南ウッディタウン駅周辺、新三田駅周辺
	地域核	広野駅周辺、相野駅周辺
	<ul style="list-style-type: none"> フラワータウン、ウッディタウン、カルチャータウンなどの計画的市街地においては、魅力的な住環境を維持するため、生活利便施設の適正な立地誘導や既存ストックの有効活用を進めます。 福島土地区画整理事業が完了し、今後、急速な土地利用の増進が見込まれる新三田駅周辺においては、公共交通ネットワークによる交通結節点としてのポテンシャルを最大限に活かすため、合理的かつ効果的に都市機能と居住機能が集積する市街地形成に向けた土地利用を図ります。 企業立地を促進するため、既存の産業集積地の一層の充実と、高速道路網の結節点である立地特性を活かした新たな産業拠点の形成に資する土地利用を進めます。 	

5 まちづくりの視点

第5次総合計画の推進にあたり、次の4つの視点からまちづくりの各施策を推進します。

(1) 三田版総合戦略に基づく人口減少にも負けないまちづくり

<総合戦略部会で審議します>

(2) SDGs（持続可能な開発目標）の理念を活かしたまちづくり

<第2回審議会で審議しました>

(3) さんだ里山スマートシティ構想に基づくICT技術を活かしたまちづくり

<第2回審議会で審議しました>

(4)共に担い、創り、育むまちづくり

まちづくりの主角は、三田で住み、働き、学び、集う皆さんであり、多くの方々に関わることで、持続可能で住みよいまちづくりが実現します。

これまでも、本市では、市民、団体、事業者、行政が、様々な場面において、目の前にある目標を実現するために、それぞれの主体が力を合わせ、特色を活かしながら、共に担い「協働のまちづくり」を推進してきました。

しかし、これからの社会は、高齢化と人口減少が急速に進行し、住民ニーズが複雑多様化するとともに、新たな感染症や激甚化する自然災害への対応を含め、先行きが不透明で、誰もが経験したことがない困難な事例に直面することが想定されます。

そのような厳しい社会情勢にあっては、具体的な解決策がすぐにはわからない課題も多く、これまでのまちづくりのやり方では限界があり、「未来のあるべき姿」について明確に描き、本市に関わる皆さんと共有することこそが、まず何よりも大切です。この第5次総合計画は、アンケートやワークショップ、審議会等の様々な手法により市民のまちへの思いを聞き、創りあげたものであり、まさに共有したい「まちの将来像・夢」が詰まったものです。

「まちの将来像・夢」を共有し、実現していくためには、これまでにはなかった発想が求められます。そのためには、様々な主体の皆さんが参画し、異なる視点や価値観のもと多方面から意見を出し合い、解決策の検討を行うことが必要です。その際、はじめは価値観の違う主体どうして意見が対立するなど、予期せぬ事態が生じることもあるかもしれません。しかし、お互いの多様性を認め合い、試行錯誤を繰り返すことで、化学反応が起こり、既存の価値観を打破し、まちの課題を解決するための新たな知恵やアイデアが創造されることが期待されます。

このような「共創のまちづくり」が、「まち」、「さと」といった多様な魅力を持つ夢と希望に満ちた本市の未来を育むために、まさに求められています。

6 施策体系

